

鎌倉街道

鎌倉十三仏巡り (神奈川県鎌倉市)



鎌倉幕府の四代将軍・藤原頼経が二、三五年に建立した明王院(神奈川県鎌倉市十二所)。夏のある日、二十人の老若男女が訪れ、不動明王に手を合わせた。読経し、御朱印をいただく。明王院は、六浦(横浜市金沢区)と鎌倉を結ぶ「鎌倉街道六

修行の道 背筋伸ばし

浦道に沿いにある。昔の街道の面影が残る、緑豊かな郊外だ。一行は続いて、明王院副住職の仲田鼎弘さん(50)の案内で、歩いて報国寺へ向かう。観世音菩薩を前に読経し、次いで釈迦如来の淨妙寺へ。さらに覺園寺(阿闍如来)、来迎寺(阿弥陀如来)、本覚寺(文殊菩薩)の三寺を巡拝し、一日で六つの

室町以降 各地に広がる

鎌倉十三仏 十三仏の信仰は室町時代に成立したとされ、参拝すれば亡き人の追善になると盛んになった。日本各地に十三仏霊場がある。各寺院の十三仏の御朱印を集め、その御朱印帳をひつぎに

入ると極楽浄土に旅立つことができるという。鎌倉十三仏の御朱印帳は一番札所の明王院で購入できる。「僧侶と巡る鎌倉十三仏」は御朱印費、昼食、保険代など有料。次回は9月29日、詳細は「鎌倉十三仏」のホームページか事務局☎0467(40)3044へ。



各地からの鎌倉街道は、鶴岡八幡宮前へと通じている



寺院を巡った。十三仏信仰に基づき十三寺院に詣で、各寺院で読経し、御朱印をいただく。

だいて巡る。この「王都鎌倉十二仏霊場巡拝」は一九八二年、宗派を超えて鎌倉十三仏詣行委員会が組織され、一番から十三番の札所が決まった。札所の順番通りに詣でており、よい。静かなチームになっており、巡る人は年間で五十人以上という。

別の日、今度は北鎌倉駅に集合。やはり「鎌倉街道」と呼ばれる県道を進み、弥勒菩薩の淨智寺、次いで地藏菩薩の円心寺へ。さらに浄光明寺(勢至菩薩)、海蔵寺(兼光如来、寿福寺)普賢菩薩の三寺を巡った後、江ノ島電鉄で長谷駅へ行

き、極楽寺(大日如来)と成就院(虚空蔵菩薩)を巡った。十三の御朱印を集め、「結願」だ。鎌倉街道は、各地から幕府のあった鎌倉へ通じる街道の総称で、巡る寺院の多くは鎌倉街道沿い。市文化財課の玉林美男さん(50)によると、各地からの鎌倉街道は、鶴岡八幡宮の前へとつながっているという。玉林さんは「十三寺なので、三十三観音などと比べ、コンパクトな分、巡りやすいでしょう」とみる。

五年前からは実行委主催の「僧侶と巡る鎌倉十三仏」を毎月開催している。一番札所が明王院なので、仲田さんが「先達」を務める。十三寺巡ると約二十キロあり、前半、後半の二回(二日)で歩く。これまでに参加者は千人を超えた。仲田さんは案内を始める前、「満足していただけるだろうか」と不安だったという。ある寺では、住職から「仏像の近くで読経したいでしょう」と一般公開していない本堂に招かれた。読経が終わると、住職からは「お経をお供えくださり、ありがとうございます」と深くと頭を下げられた。仲田さんは「参加者は観光客ではなく、修行する者として扱ってもらえて感激したと喜んでいました」と話す。

参加者からは結願の後、「よい修行になった」「交通事故で亡くなった子どものよい供養になった」などの言葉が続いた。仲田さんは背筋が伸びる思いがしたという。「自分自身が修行させていたれていると思つて、案内しています」。文・草間俊介 写真・梅津忠之

*次回9月7日は「木曾街道・橋立」(石川県加賀市)です。